

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

一歩の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、同研究所の調査研究レポートのなかから、「神田雅楽」を紹介します。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



ながさき経済web画面

お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



神田雅楽

長崎経済研究所 調査研究部 泉 猛



観月会 (写真提供: 佐々町社会福祉協議会)

静かに息づく、生きた伝統
—— 佐々町に伝わる

神田雅楽 (町指定無形文化財)

長崎県北部にある佐々町は、古くは交通の要衝として栄え、歴史の節目ごとに人と文化が行き交った町です。その佐々町で、伝統芸能「神田雅楽」を守り伝えているのが、大浦源次氏を代表とする同雅楽の継承団体です。地域の宝とも言える「神田雅楽」を、演奏活動を通して次世代へ受け継いでいます。

120年を
超えて奏でられる音色

神田雅楽の歴史は1902年(明治35年)、佐賀県西有田町曲川(現在の佐賀県有田町)の法泉寺の僧、桃谷自牽和尚から、佐々町にある正福寺の門徒に伝えられたことに始まります。それ以来、同雅楽は佐々町で開催される年忌法要や彼岸行事、慶事・弔事などで演奏され、

人々の暮らしに寄り添う文化として根付いてきました。

戦時中は、担い手の召集が相次いだことから、一旦、途絶えてしまいました。しかし、地域の神田雅楽への強い思いによって、1955年(昭和30年)の正福寺本堂再建50年祭を契機に、平戸や京都の専門家の協力を得て楽器の修理・調達を進め、かつての響きを取り戻し復活しました。復活後は正福寺の年4回の法要や町の招魂祭、観月会などの行事で演奏されています。

規模が小さいながらも、120年以上の歴史を持つ神田雅楽は、一人ひとりの熱意によってその貴重な音色を今に伝えており、地域の中で静かに息づく伝統文化として、その存在は確かな価値と重みを備えています。

雅な調べを未来へ

神田雅楽で使われる楽器は、太鼓や鉦鼓、龍笛、鳳笙、箏、箏などの伝統



ながさきピース文化祭2025 雅楽の祭典(写真提供:佐々町)

楽器です。「越天楽」や「抜頭」といった古典的な曲が演奏され、厳かな旋律が空間を包み込みます。その音色は静寂に溶け込み、聴く人の心を穏やかに整えてくれるなど、まさに儀式や祭典にふさわしい格式を備えた音楽と言えます。

1982年(昭和57年)10月、神田雅楽は佐々町の無形文化財に指定されました。現在も代表の大浦氏を中心に、演奏指導など、雅楽の未来につながるための活動を続けています。昨年(2024年)11月には、佐々小学校において雅楽の歴史や楽器についての話や演奏を行い、子どもたちに興味や関心を持ってもらえるよう伝統文化の継承に取り組んでいます。

長崎で開催された「ながさきピース文化祭2025(第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭)」では、11月9日(日)に佐々町文化会館大ホールにて、地域文化発信事業として『雅楽の祭典』が開催されました。神田雅楽も祭典に参加

し、伝統の響きを多くの聴衆に届け、華を添えました。当日は、120年以上受け継がれてきた美しい調べとともに、佐々町の伝統文化の息吹を間近に感じられる、貴重な機会となりました。